



小千谷市立 総合支援学校 進路だより

No.5 (R2/12/9)

〒949-8721
小千谷市大字塩殿甲 2144 番地
TEL 0258-82-1878

高等部後期実習を終えて

～保護者アンケートの紹介～

10/12～30の3週間、高等部後期職場・校内実習を実施しました。実習後、保護者の皆様からアンケートにご協力いただきました。多かったご意見や特に紹介したいご意見をまとめましたので、ぜひご一読ください。

Q1、今回の実習でお子さんにどんな成長・成果が見られましたか？

○「親が思っている以上に成長していると感じました」というご意見を多くいただきました。

- ・年齢の離れた方々と一緒に落ち着いて仕事できていました。
- ・慣れない土地で、宿泊体験先から一人で歩いて通えました。
- ・自分からコミュニケーションを取って居場所を作っていたと聞きました。
- ・立ちっぱなしの仕事でしたが、気力体力ともに成長したと感じました。
- ・分からないことを自分で判断せず職員に聞くことができていました。
- ・今回の実習で路線バスに乗れるようになりました。
- ・事前に実習先の場所を確認した後に、改めて一人で道順と通勤時間を調べていました。



○「時間への意識が高まりました」というご意見も数件いただきました。

- ・いつもより就寝時間を気にして行動していました。

- ・実習で疲れている中でも、普段家で行っている手伝いをいつも通りにしてくれていました。
- ・商品が世界に輸出されることを聞いて、本人も楽しく仕事をしていました。



Q2、実習を通して、保護者の立場からのお考えをお聞かせください。

○「前期は職場実習が中止となり心配であった。今後も職場での実習が継続できるとよい」というご意見をいただきました。

- ・後期の実習である程度決めないと・・・という思いの中で不安でしたが、何でもやらせてみないと分からないんだなあと思いました。
- ・実習は様々な社会勉強になるので本人の成長に繋がり、大切なものだと感じました。

○新たな課題の発見についてのご意見を多数いただきました。

- ・コツコツと続ける仕事で成果が見られた一方、他の職員様にお願いするなどの応用は難しかったようです。
- ・一定の作業はできるものの、コミュニケーション力を考えると企業での就労はハードルが高いと感じました。
- ・バスの乗り方や電話の掛け方など、色々なことがまだまだなんだと実感しました。
- ・スタッフの方々が知らなかった訓練、支援方法が多くあったようです。実習を通して実際に関わっていただき、理解していただけ良かったです。
- ・保護者ではない第三者の方からの指導は、時間はかかるものの身に付いていると思います。
- ・在宅中の支援はどのようにしたらよいか考えさせられました。
- ・集中力は良い評価をいただいたので、考える力、話せる力を身につけてほしいです。
- ・昼食後の洗い物など、身の回りちょっとしたことを自分で行うことが将来の社会生活に繋がると感じました。
- ・見学で子どもの姿を目の当たりにして、感動しました。



Q3、今後に向けてのご要望、ご質問、お困りのこと、

お子さんの将来の生活や社会についてのお考えをお聞かせください。

○「自分の進路を見つけてほしい」というご意見をいただきました。

- ・自分から「農業」を選んだ事に大変驚いています。このことを大事にして、将来の自分を見つけてほしいです。

○進路の方向性について、具体的にご意見をいただきました。

- ・就業先が福祉サービス事業所でも一般企業の障害者雇用でも、元気に働く大人になってくれればかまいません。
- ・卒業後、条件が合えばグループホーム等で生活する方向を探しています。

○スマートフォンやゲームが就寝時間に影響してしまい、朝スムーズに起きられずに困っているというご意見も数件いただきました。

○実習受け入れ先への感謝のお言葉も多数いただきました。ありがとうございます。

○小千谷市に入所施設が無いことや、各施設の受け入れ可能人数、採用企業の有無について、心配であるというご意見も数件いただきました。

～実習の成果と今後の展望について～

- ・おかげさまで事故等無く、全員が計画通りに実習できました。しかし通勤時のヒヤリハット事例があり、評価票の「安全」も74%と高くはない結果でしたので、安全管理をさらに徹底していきます。
- ・アンケートにて、「実際に働く姿を見て、前より安心した」というご意見をいただきました。「働くことによって親を安心させる」ということは実習中校内に掲示していたテーマの一つですので、学校としても励みになりました。
- ・ご家庭のサポートのおかげで、評価票の「時間」「服装」「衛生」における達成率が伸びています。特に「服装」は生徒が現場に出た時、想像以上に本人の印象を左右します。良い印象は職場で本人の立場を守ることに繋がりますので、今後ともご支援をお願いいたします。
- ・今回の実習では、実習生の「実直さ」や「勤勉さ」が随所に見られました。実務に直結する項目である「正確さ、集中力、速さ」も伸びています。**指示を受け、時間一杯コツコツと仕事ができる生徒が多い**ということです。

- ・一方、課題として顕著な項目が「質問」です。質問できない状況には「わからないまま指示待ち」と「質問すべき状況にあることを自覚できていない」という**2つのパターン**があります。二つ目の場合職員は「早く聞きに来ないかな」と思っていますが、本人は「順調」と考えているので当然質問には行きません。
- 実習生と職員双方のお話を聞くうちに、今回の「質問達成率64%」という評価には2つ目のパターンも数件含まれているということがわかってきました。実習生は聞くことをためらっているのではなく、アクシデントに気付いていなかったということです。これに対応するには「**自分でよく考える力**」を鍛える必要があります。
- ・今年度は後期職場実習実施の可否も、期限ぎりぎりの判断となりました。高齢者福祉施設や関東方面との行き来がある企業では受け入れをお断りいただくこともありました。**何事も「当たり前ではない」ということをより強く感じた実習でした。**受け入れ先事業所はじめ、関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。

実習生の皆さん、大変おつかれさまでした。次へ向けてまたがんばりましょう



R2 高等部 実習達成率（職場実習先からの評価 全員分の平均値です）

■ 前期校内 ■ 後期職場

